

メキシコの金利引き上げについて

2016年2月22日

2月17日(現地時間)、メキシコ中央銀行は緊急会合を開き、政策金利を0.50%引き上げ、3.75%にすることを決定しました。さらに、中銀と財務省は共同声明を発表し、為替介入の手法をこれまでのルールに基づく入札方式から状況に応じて裁量的に実施する直接市場介入方式に変更すること、および財政支出の削減を発表しました。為替市場では、昨年12月にメキシコ中銀がFRB(米連邦準備制度理事会)に追随して利上げを実施し、この先も米国の金融政策に沿って緩やかに利上げを進めるとみられていたことから、今回の決定は市場のサプライズとなり、メキシコ・ペソは大幅に上昇しました。

《緊急利上げの決定に至った背景について》

メキシコ中央銀行は、緊急会合後に発表された声明文の中で、今回の利上げは引き締めサイクルの始まりではないと断りつつ、中長期インフレの決定因子のなかでも特に為替レートを通じたインフレ(期待)への影響波及を注視すると述べており、急激な通貨安及びインフレ急加速を阻止するとの強い決意を示したものと考えられます。

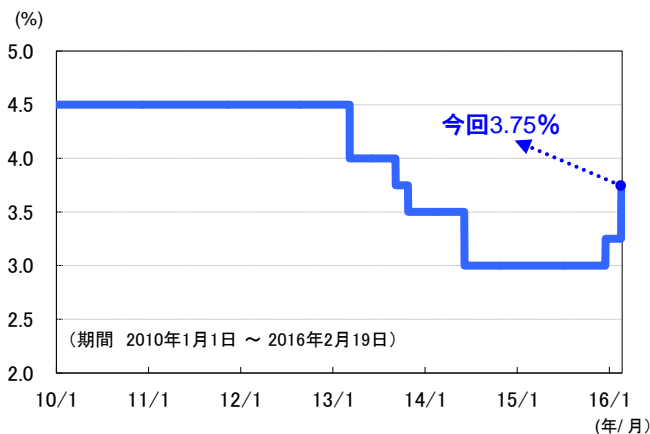
実際、メキシコ・ペソは、年明け以降も対ドルで史上最安値の更新が続き、他の新興国通貨と比べても下落幅が大きくなっていました。直近の消費者物価指数は前年比+2.6%と依然として中銀目標の同+3.0%を下回っていますが、今後は大幅な通貨安による輸入物価上昇の影響が顕在化するにつれ、インフレ期待の上昇と相まって物価の安定が脅かされかねないとの懸念を中銀は強めたとみられます。

《今後の為替見通しについて》

メキシコ国内の景気は、今のところ本格的な腰折れが懸念されるような状況にはありませんが、最大貿易相手国の米国景気の先行き不透明感が高まってきていることには注意が必要です。一方、物価に関しては、上述の通り足元の水準は懸念すべきものではありませんが、ここ最近の急激な通貨安でインフレ高進リスクは増えています。景気・物価の先行きに懸念が高まるなか、政府・中銀が一体となってインフレ抑制・財政規律維持の政策意思を示したことは下落基調のメキシコ・ペソ相場に一定の歯止めになると考えられます。

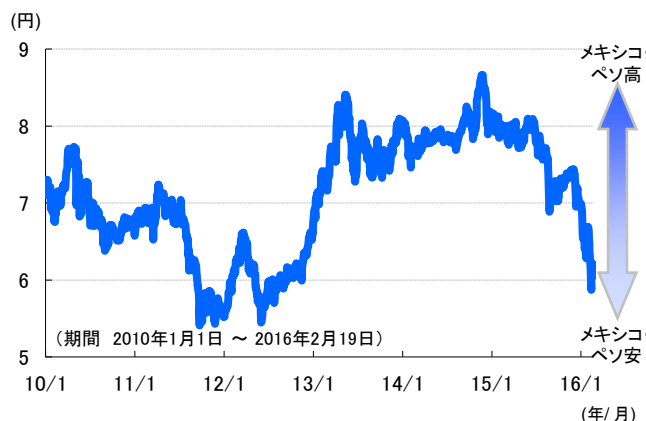
- 当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類(目論見書等)ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。
- 当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。
- 投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。

《メキシコの政策金利の推移》



出所：Bloombergより明治安田アセットマネジメント作成

《メキシコ・ペソの対円推移》



出所：Bloombergより明治安田アセットマネジメント作成